

総 括

2018年のJRDR年次調査結果を総括すると、わが国の慢性透析患者数は339,841人と依然として増加しているが、その増加速度は徐々に低下してきている。平均年齢は68.75歳で高齢化も依然として進行している。導入患者と年末患者の基礎疾患は変わらず、糖尿病が第1であるが、導入患者にせめる糖尿病性腎症の割合はここ数年頭打ちの状態である。

わが国の透析液の生物学的水質は非常に高く、JSDT基準の遵守度も高い。一方化学的汚染基準については、2017年から調査が開始されたが、その遵守度は生物学的汚染基準に比較して低く、今後の持続的な啓発活動が必要である。

2012年の診療報酬改定から急速に増加してきたHDF治療はさらに増加して、全透析患者の37.0%に達した。腹膜透析と在宅血液透析は2017年に比較して微増したが、両者を合わせた在宅透析の比率は依然として3.0%と低かった。腹膜透析患者の約20%は施設血液透析との併用であり、この割合はここ数年間で変化はなかった。

糖尿病治療の現状調査から、血糖管理の指標としてはグリコアルブミンを測定した施設が約80%であり、HbA1Cを測定していた施設は44%であり、2012年のガイドラインが浸透してきていることがうかがわれた。インスリンは回答のあった患者の26.3%で使用されていたが、DPP-4阻害薬はこれを上回る39.7%で使用されていた。

2018年調査における認知症の合併は10.8%に認められ、年齢が上がるにつれてその頻度が増し、75歳以上では22.7%に達した。この頻度は2009年調査、2010年調査とほとんど同じであった。

生活活動度は年齢が高くなるに従って低下し、75歳以上の患者では約25%が1日の50%以上就寝する生活であった。運動習慣はどの年齢層でも60～80%が「なし、ほとんどなし」であった。

肝炎ウイルスに関する調査では、HBs抗原陽性率は、1999年の2.09%から2018年は1.38%と低下、HCV抗体陽性率は同様に16.0%から4.7%に大きく低下した。

2018年調査においては、従来の調査項目に加えて、上記の糖尿病、認知症、日常生活度などの詳細な調査が行われた。これらは将来の併発病態の変化を念頭において、今後望まれる透析治療のあり方を考察するために調査されたものである。これらの詳しい解析結果は今後、本報告書とは別な形で報告される予定である。

■地域協力委員（敬称略）

（北海道）前野七門，（北海道）河田哲也，（青森）大山力，（岩手）清野耕治，（宮城）佐藤壽伸，（秋田）佐藤 滋，（山形）伊東 稔，（福島）風間順一郎，（茨城）植田敦志，（栃木）齋藤 修，（群馬）安藤哲郎，（埼玉）小川智也，（埼玉）熊谷裕生，（千葉）寺脇博之，（東京）安藤亮一，（東京）阿部雅紀，（東京）柏木哲也，（東京）濱田千江子，（神奈川）柴垣有吾，（神奈川）平和伸仁，（新潟）島田久基，（富山）石田陽一，（石川）横山 仁，（福井）宮崎良一，（山梨）深澤瑞也，（長野）上條祐司，（岐阜）松岡哲平，（静岡）加藤明彦，（静岡）森 典子，（愛知）伊藤恭彦，（愛知）春日弘毅，（三重）小藪助成，（滋賀）有村徹朗，（京都）橋本哲也，（大阪）稲葉雅章，（大阪）林 晃正，（大阪）山川智之，（兵庫）西 慎一，（兵庫）藤森 明，（奈良）米田龍生，（和歌山）根木茂雄，（鳥取）中岡明久，（島根）伊藤孝史，（岡山）杉山 斉，（広島）正木崇生，（山口）新田 豊，（徳島）岡田一義，（香川）山中正人，（愛媛）菅 政治，（高知）大田和道，（福岡）田村雅仁，（福岡）満生浩司，（佐賀）池田裕次，（長崎）錦戸雅春，（熊本）宮田 昭，（大分）友 雅司，（宮崎）藤元昭一，（鹿児島）野崎 剛，（沖縄）大城吉則

文献

- 1) 中井滋. 日本透析医学会統計調査の歴史. 透析会誌 2010; 43: 119-52.
- 2) 政金生人. 透析療法の動向～統計調査から見えてくるもの～. 透析会誌 2016; 49: 211-8.
- 3) 和田篤志, 新田孝作, 花房規男, 他. WADDA system の使用法と有効活用. 透析会誌 2019; 52: 673-8.
- 4) 厚生労働省, 文部科学省. 「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」
http://www.lifescience.mext.go.jp/files/pdf/n1443_01.pdf (2019.11.15 最終アクセス)
- 5) 厚生労働省, 文部科学省. 「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (平成 29 年 2 月 28 日一部改正)」
https://www.lifescience.mext.go.jp/files/pdf/n1859_01.pdf (2019.11.15 最終アクセス)

- 6) 日本透析医学会. <http://www.jsdt.or.jp/info/2510.html> (2019.11.15 最終アクセス)
- 7) 中井滋, 若井建志, 山縣邦弘, 井関邦敏, 椿原美治. わが国の慢性維持透析人口将来推計の試み. 透析会誌 2012; 45: 599-613.
- 8) Chapter 11: International Comparison, the 2018 USRDS Annual Data Report. Washington: United States Renal Data System, 2018 https://www.usrds.org/2018/view/v2_11.aspx (2019.9.3 最終アクセス)
- 9) 新田孝作, 政金生人, 花房規男, 他. わが国の慢性透析療法の現況 (2017年12月31日現在). 透析会誌 2018; 51: 699-766.
- 10) 秋葉隆, 川西秀樹, 峰島三千男, 他. 透析液水質基準と血液浄化器性能評価基準 2008. 透析会誌 2008; 41: 159-67.
- 11) 峰島三千男, 川西秀樹, 阿瀬智暢, 川崎忠行, 友雅司, 中元秀友. 2016年版透析液水質基準. 透析会誌 2016; 49: 697-725.
- 12) 日本透析医学会. 血液透析患者の糖尿病治療ガイド 2012. 透析会誌 2013; 46: 311-57.
- 13) 日本透析医学会. わが国の慢性透析療法の現況 (2013年12月31日現在). 透析会誌 2015; 48: 1-32.
- 14) World Health Organization. International Statistical Classification of Diseases and Related Health Problems. 10th Revision. Geneva: World Health Organization; 1993.
- 15) 日本神経学会. 認知症疾患診療ガイドライン 2017. 東京: 医学書院, 2017.
- 16) Moser VA, Pike CJ. Obesity and sex interact in the regulation of Alzheimer's disease. *Neurosci Biobehav Rev* 2016; 67: 102-18.
- 17) 日本透析医学会. わが国の慢性透析療法の現況 (2010年12月31日現在 CD-ROM 版). 東京: 日本透析医学会, 2011.
- 18) 日本透析医学会. わが国の慢性透析療法の現況 (2009年12月31日現在 CD-ROM 版). 東京: 日本透析医学会, 2010.
- 19) Kopf D, Frölich L. Risk of incident Alzheimer's disease in diabetic patients: a systematic review of prospective trials. *J Alzheimers Dis* 2009; 16: 677-85.
- 20) Nakai S, Wakai K, Kanda E, Kawaguchi K, Sakai K, Kitaguchi N. Is hemodialysis itself a risk factor for dementia? An analysis of nationwide registry data of patients on maintenance hemodialysis in Japan. *Renal Replacement Therapy* 2018; 4 <https://doi.org/10.1186/s41100-018-0154-y>.
- 21) 日本透析医学会. わが国の慢性透析療法の現況 (1998年12月31日現在). 名古屋: 日本透析医学会, 1999.
- 22) 日本透析医学会. わが国の慢性透析療法の現況 (2002年12月31日現在). 東京: 日本透析医学会, 2003.
- 23) 椿原美治 編, 中井滋 執筆責任. 透析医学会統計調査がわかる逆引き事典. 大阪: 医薬ジャーナル社, 2014.
- 24) 小高通夫. 現況に関する全国アンケート報告. *人工透析研究会会誌* 1972; 5: 184-8.
- 25) 日本透析医学会. わが国の慢性透析療法の現況 (1999年12月31日現在). 名古屋: 日本透析医学会, 2000.
- 26) 日本透析医学会. わが国の慢性透析療法の現況 (2000年12月31日現在). 東京: 日本透析医学会, 2001.
- 27) 日本透析医学会. わが国の慢性透析療法の現況 (2001年12月31日現在). 東京: 日本透析医学会, 2002.
- 28) 日本透析医学会. わが国の慢性透析療法の現況 (2006年12月31日現在 CD-ROM 版). 東京: 日本透析医学会, 2007.
- 29) 日本透析医学会. わが国の慢性透析療法の現況 (2007年12月31日現在 CD-ROM 版). 東京: 日本透析医学会, 2008.
- 30) Akita T, Tanaka J, Satake M, et al. Meta-regression analysis of sex-and birth year-specific prevalence of HBsAg and anti-HCV among un-diagnosed Japanese: Data from the first-time blood donors, periodical health checkup, and the comprehensive health checkup with lifestyle education (Ningen Dock). *J Epidemiol* 2019 Aug 24. doi: 10.2188/jea.JE20190055.
- 31) 日本透析医学会. わが国の慢性透析療法の現況 (2003年12月31日現在 CD-ROM 版). 東京: 日本透析医学会, 2004.
- 32) Choo QL, Kuo G, Weiner AJ, Overby LR, Bradley DW, Houghton M. Isolation of a cDNA clone derived from a blood-borne non-A, non-B viral hepatitis genome. *Science* 1989; 244: 359-62.
- 33) Kuo G, Choo QL, Alter HJ, et al. An assay for circulating antibodies to a major etiologic virus of human non-A, non-B hepatitis. *Science* 1989; 244: 362-4.